

# 農業用資材について 番外編

農産部会主任研究員 成田 国寛

前回は、有機肥料の魚かすには肥料成分の異なる製品が数多くあり、圃場や作物の条件にあわせて選ぶことができることをお伝えしました。一方、資材を選ぶ際には原料や成分はもちろん価格も重要な指標となっています。

そこで、今回は、話題を少しかえて農業用生産資材の価格についての話です。

## Message

### ■下がる生産資材費

日本農業新聞に、生産資材の価格に関する統計値がでていました。

1995年時の生産資材費全体を100とした場合、2001年は102.4となり24%の値上がりとなっています。資材別にみると、肥料が104.7、農薬が97.0、高熱動力が99.4、農業機械が102.8でした。一方、生産者価格は輸入農産物によるデフレの影響もあり、86.9まで低下しました（この数値は一般生産者のデータがもとになっています）。

売上がのびずに生産資材費が上昇すると、手元に残る利益が少なくなります。そのため農林水産省や農協などでは生産資材費の削減活動をすすめてきましたが、世の中がデフレといわれている割には不思議と下がっていないような気がします。既存の業界団体による談合らしきものも原因ではないかとの指摘もあります（たとえば、販売エリアを決めて競争相手を少なくし、価格を横並びにすることも一部で見受けられるようです）。

大きなホームセンターに行けばよくわかるのですが、この農業用資材がなぜこの値段で？ というのが目につくことがあります。ホームセンターは上記の流通システムに組み込まれていないので、価格を独自に決めることができます。そのため、生産原価に敏感な生産者は、必要とする生産資材の価格を比較・検討し、品質が満足いくもので、かつ求めやすい値段の製品を積極的に購入しているようです。

### ■価格も大切、中身も大切

農業新聞の記事中に輸入資材を積極的に活用する酪農家の話も引用されていました。

「安い資材が欲しかったら、まず地元

の農協に行け。農協に頼んでもなければ町中を探せ。それでもなければ県内、さらに日本中を探せ。それでもなければ世界中から探せ」。

厳しい生産環境にある酪農家の緊迫感がひしひしと伝わってくる内容です。生産原価を抑制するため、努力を惜しまない事が生き残りに不可欠であることがうかがえます。インターネットが普及したこともあり、上記生産者のように個人や生産者団体がより安い生産資材を求めて海外から輸入することも徐々に増えてくるのでしょうか。

一方で安全性にかかわる防除資材・有機質資材などを価格だけで選ぶと困ったことがおきることもあります。例えば、ホームセンターで「格安」に販売されている防除資材。実はこれ、登録農薬ではなく「非農耕地用」除草剤や殺菌・殺虫剤だったりします（ちなみに安い物は登録農薬の数分の1の値段のため、慣行生産者が登録農薬の代わりに使用することもあります）。

ぱっと見ただけでは違いがわかりませんが、「非農耕地用」防除資材は海外で生産された製品が多く、登録農薬と原体は同じであっても、不純物の混入など安全性や環境への影響など不安が残るものなのです。読んで字のごとく「非農耕地用」であり農地には使用できないものなので、十分気をつけなくてはなりません。肥料でも同様で効果が思ったほどでなければ、使用した意味がありません。

経営面からは生産資材費を抑えることは大切なのですが、価格だけで選んでしまうと、安物買いの銭失いどころか、信用や信頼を失ってしまう恐れもあります。価格も大切ですが、中身もきちんと調べて選びたいものです。

### ■生産資材が安くなる?!

つい最近のことですが、生産資材費がなかなか安くないのにしびれを切らした農林水産省が、各地の資材価格の情報をインターネット上に掲載することに決めました。直接連絡ができるように、メーカーや販売店の住所なども掲載し、生産者が直接連絡できるようにするとも聞いています（今現在、業界団体と調整している最中とのこと）。

もちろん農林水産省の取り組みで、生産資材費がすぐに安くなるとは思っていません。しかし、生産資材がどのくらいで売られているのか、今の価格は妥当なのかを知る手だてにはなります。また、販売店やメーカーとしても他店・他商品と比べられるので、価格はどうしても気になるところです。他店・他商品の価格と並べられて掲載されると、ちょっと価格を下げたいという気持ちになってしまうからです。このような事例が増えてくれば、生産資材全体の価格も徐々に下がってくるのではと、実はちょっと期待しているところもあるのです。

#### （参考：肥料に関する経費削減の例）

- 土壌診断、作物栄養診断に基づいた適正施肥の実施。
- 肥料生産工場から直取り・直送。空荷便の活用など送料の削減。
- 汎用性肥料の積極的な活用。  
（少量多品種肥料より価格が安く、品質も安定していることが多い）
- 当用買いより予約買いの方が安い場合、予約買いを活用。

等々